

サーサナ

第16号 仏暦2554（西暦2011）年9月1日

宗教的寛容

吾人の世に在るや、
必ず一つの完全なる立脚地
なかるべからず

清沢満之

正月は神社へ初詣、結婚式はキリスト教の教会で、葬式は仏教僧侶に読経してもらう、、、このように日本人の大多数は宗教的に無節操であると評されることがあります。しかしこれに対して、「いいや、それは日本人が宗教的に寛容な証拠だから、それをとやかというのがむしろ了見が狭いのだ」という反論があります。

私自身は、やはり日本人の大多数は宗教的に無節操、あるいは宗教音痴なのだと思います。宗教的寛容ということの正しい意味は、別の宗教を信じる人を排除しない、ということです。「自分の信仰と彼の信仰は違っている。だけれども彼とは仲良くやっていける」という人が寛容なのです。あれもこれも、というのは寛容とは言いません。ダライラマ14世はいみじくも、「唯一神を信じる人は同時に仏教徒であることはできない」とおっしゃっています。

歴史的に言えば、日本は宗教的に寛容な国ではありませんでした。私ども浄土真宗にとって一大事件であった「承元の法難」、これは専修念仏の教えに対してなされた大がかりな宗教弾圧でした。その後も、徳川幕府によるキリスト教弾圧、明治維新政府による仏教弾圧、大本教への弾圧など、いくつも例を挙げることができます。

宗教とは「宗（むね）とする教（おしえ）」ということで、自分にとって何をいちばん大切なこととするか、という問題です。すなわち依って立つ場所が明らかになるということです。それは扇の要（かなめ）にもたとえられます。要がぐらついていると、扇はばらばらになってしまいます。

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。

九月 秋彼岸会

春彼岸会とならんで、一年で最も過ごしやすい時期に仏道精進を誓いつつ、聞法いたしましょう。

- *日 時 9月20日(火) 午後2時～4時【受付開始は午後1時半】
- *内 容 勤行(観無量寿経訓読、正信偈)、法話
- *持ち物 勤行本『真宗法要聖典』、念珠、肩衣(お持ちの方)、お布施
- *法 話 当寺住職
- *記念施本 『ほんとうのしあわせ』(東本願寺出版部)

十月 報恩講(ほうおんこう)

報恩講とは、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人(1173-1262)の御命日にあたり、宗祖に対する報恩謝徳をあらわす法要です。

- *日 時 10月29日(土) 午前10時～午後3時半【受付開始は午前9時半】
- *内 容 午前：勤行(正信偈真四句目下・念仏讃洵五)および法話
おとぎ(昼食)
午後：勤行(文類偈真四句目下・念仏讃洵五)および法話
- *持ち物 『報恩講勤行テキスト』、念珠、肩衣(お持ちの方)、お布施
- *法 話 前田和丸師(一心寺住職)
- *記念施本 『真宗の生活』『報恩講』『法語カレンダー』(真宗興隆会)
- *記念品 クッキー
- *29日命日の御家族による合同の月忌法要が、報恩講終了後の午後3時半から、本堂にて勤まります。

十一月 本山報恩講団体参拝

今年は親鸞聖人の七百五十回御遠忌にあたり、その御正当(ごしょうとう)報恩講へ参拝をします。御遠忌法要に参拝された方もできなかった方も、どうぞご参加下さい。

- *日 時 11月27日(日)～28日(月)
- *内 容 一日目は新しくできた仏教博物館「龍谷ミュージアム」見学
二日目は御満座法要(結願法要)参拝
- *参加費および詳細な行程については未定です。関心のある方は、住職へ直接お問い合わせください。

関連団体の行事案内

名古屋市仏教徒大会

- *日 時 10月14日（金）午後1時開会
- *場 所 東別院会館ホール
- *テーマ 「仏教と雅楽」（雅楽の演奏とお話）
- *講 師 荒山淳（真宗大谷派名古屋教区教化センター主幹）
- *参加費 無料
- *チケット（粗品引換券を用意していますので、希望の方は住職まで）

法務休暇等のお知らせ

下記の期日を法務休暇とさせていただきます。

●9月10～12日 ●10月7～9日 ●11月6日

本堂にて下記のとおり一座読経（総経）いたしますので、ご参拝下さい。なお、忌日に相当しない場合でも、ご自由に参拝していただけます。

○9月9日午前11時 ○10月6日午後1時 ○11月5日午後1時

ユニセフ募金の報告

本堂の賽銭箱に入れられた皆さまからの浄財は、財団法人・日本ユニセフ協会に寄付されます。6月10日に、13,768円を同会に振込みました。累計では、116,524円の寄付となりました。ありがとうございました。



帰敬式受式おめでとうございます

6月28日、下記の五名の方々が、当寺第四回帰敬式を受式され、法名授与されました。今後とも、仏法聴聞・仏道精進されますことを願いたします。

釋尼淨樂 釋喜忍 釋尼和光 釋治光 釋勇聡

東日本大震災支援金お礼

8月12日現在、147名の方々より、総計365,000円の支援金が寄せられました。厚くお礼を申し上げます。この支援金は、本山・東本願寺をとおして、被災地教区の教務所および自治体へと送られました。今後とも引き続き、支

援金の募集を行なっておりますので、よろしくお願いいたします。

清掃・おみがき奉仕

皆様方のご奉仕をお願いしております。主として、境内の草取りと仏具の研磨です。終了後はお茶とお菓子でおくつろぎ下さい。雨天の場合は仏具の研磨のみになります。

9月12日（月） 午前9時から11時（時間変更になりました）

11月12日（土） 午前9時から11時

☆仏事Q&A☆ =====

Q：父の17回忌法要を去年勤めなくてはいけなかったのに、すっかり忘れていました。どうすればよいでしょう。

A：〇回忌というのは、亡くなったその年を1としますから、17回忌は亡くなってから16年目ということになりますね。ややこしいので、うっかりすることは誰にでもあります。今年を18回忌法要として、あるいは17周年忌法要としてお勤めになればよいでしょう。

Q：年忌法要は、前にするのはいいけれども、遅らせるのはいけない、と聞いていますが...

A：そんなことはありません。大切なことは仏事をとおして教えに出あい、教えをいただいていくことですから、遅らせてもやらないよりやったほうがいいのです。理想的なのは命日の当日にすることですが、なかなかそうもいかないでしょう。遅らせてはいけない、というのなら、前倒ししてもいけないことになってしまいますよ。

Q：母の23回忌は来年になるのですが、父の18回忌と同時に勤めてもかまいませんか。

A：積極的に勧めするわけではありませんが、招く親族の方のご都合もあるでしょうから、それでもかまいません。しかし、親族を招かないで家族だけで勤めるなら、別になさる方がよいでしょう。

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弑（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>